

科 目 名(Subject)	経済史 (Economic History)		
単 位 数(Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	松家 仁 (Jin Matsuka)	研究室番号 (Office)	432
Office Hours	授業の前後の休み時間		

1. 授業目的・方法(Course objective and method)

この授業の主要な目的は2点ある。すなわち：

- 1) 基本的な研究倫理について、具体例を通して理解すること
- 2) 歴史研究の基本的な姿勢や基本的な研究手法に関して、文献輪読・研究報告を通して、履修者の理解を深めること

2. 達成目標(Course goals)

経済史研究の方法論、作法そしてアカデミック・ライティングなどについて、標準的かつ基礎的な知識を身につける

3. 授業内容(Course contents)

授業は、報告・発表形式で行うが、その前提として最初の第1～3週に、以下の点についての講義を行う

- 1) 研究倫理の問題について、具体的な問題事例を通して認識する
何が公正な引用で何が剽窃・盗用に当たるのか？
正確な参考・引用文献の正しい提示方法および先行研究の紹介のやり方を巡る諸論点について認識する
- 2) 問題設定と先行研究の評価方法

語学力・史料の状況などを勘案して、前期博士課程の学生としてふさわしい研究テーマの設定について検討する

その後、第4～13週は、履修者と相談して決定した使用教材（文献）の輪読を行い、最後の第14～15週にあらためて履修者の研究課題についての報告をもとに、その内容を議論する。

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

事前学習として、自分が研究したい時代・地域に関する基本的な文献・先行研究をちゃんと読んでおくこと、また研究対象の時代・地域の文学・言語などについても簡単な知識を身に付けておいてほしい

事後学修としては例えば、論文の執筆に役立つ具体的な研究メモ・年表の作成が考えられる

5. 使用教材(Teaching materials)

履修者と相談して決定する

6. 成績評価の方法(Grading)

授業の最後に提出する研究課題に関するレポートによって評価する

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

レポートの質・授業における出席状況などにより総合的に評価する

8. 履修上の注意事項(Remarks)

- ・学術的な生産に携わりたい学生の履修を期待する
- ・高校時代に世界史を学習していない履修者は、高校世界史教科書の近現代史の部分を読んでおくこと
- ・いろいろな言語のプリントを配るので、外国語の知識を維持しておくこと